様式1 # 令和6年度　山梨県立中央高等学校（定時制）評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	自らを尊び、社会を生き抜く人づくりをします

山梨県立中央高等学校校長　中込　一成

本年度の重点目標	
	1　学ぶ楽しさ・わかる喜びを知り、自らの生き方や在り方を問い続ける
	2　社会性を身につけ、自立と自律を目指す
	3　自らを尊び、他者を尊び、地域を尊ぶ

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価		
	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自　己　評　価							学校関係者評価	
	本年度の重点目標			年度末評価（2月6日現在）			実施日　（令和7年2月21日）	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	学ぶ楽しさ・わかる喜びを知り、自らの生き方や在り方を問い続ける	・「わかった！」「楽しい♪」「なぜ？どうして？」、「自分だったら」の学びを大切にし、少人数授業の中でも協働的な活動を活用して、個に応じた力を伸ばす。 「基礎・基本の定着と学びに向かう力」 「多面的・多角的に考える力」 「本質的な問いかけ」 ・相互授業参観や授業アンケート結果を活用し、ファシリテーションスキルを身につけ、教員・生徒相互がICTを利活用した授業の実践	・生徒、職員、保護者、学校関係者などによる中間・年度末評価アンケートなどによる ・教職員の授業実践状況 ・生徒の学力状況	・生徒によるアンケートの結果「楽しい、わかったと思える授業がある」86%、「学校が楽しい」は昨年度から3．7ポイント増加し80%となっている。 ・保護者によるアンケートの結果「学校での活動を通して、生徒の成長を感じる」93%、「生徒は学校が楽しいと感じ、いきいきと生活している」が昨年度より4．5ポイント増加し87%と高い結果であった。 ・教職員によるアンケートの結果「教育課程は生徒の特性に応じた各教科・科目等の履修ができるよう、選択幅を広げ、生徒の個性を生かす編成となっている」98%、「主体的・協働的な学びなどを取り入れて、自ら学び自ら考える力（自己の在り方、生き方）を育成している」93%と高く、ファシリテーションスキルを各先生方が向上させて、教育活動を行っている。 ・保護者アンケートによる結果「生徒は、授業や家庭学習にICT機器（タブレット端末等）を効果的に活用することができている」が昨年度より1．9ポイント増加し72%となったが、他の評価項目と比べ低い結果となった。	A	・生徒は概ね前向きな態度で授業に臨んでいる。教職員の授業改善の効果もあり、学習への意欲は高まっていると感じている。大勢の中を苦手とする生徒がいる中、グループワークやペアワークを取り入れた少人数の授業形態で、「楽しい、わかった、私もできる」といった実感を得ている。 ・一方アルバイトなど就業している生徒が多く、家庭学習が1時間以上の生徒の割合は昨年度から3．4ポイント増えたがまだ庭学習に要する時間は少なく、学習の定着については課題がある。 ・少人数の授業形態を通し、教職員のファシリテーションスキル向上し、「認める・引き出す・まとめる」においては効果を上げているが、多様な生徒が在籍する本校では、情報共有や外部連携等の推進が一層求められる。 ・ICTの利活用など、教員の授業改善は進んでいる。教科の特性もあるが利活用の頻度に若干の差がある。その為、ICT支援員の協力を得て、今年度も各種講習会の開催や、特に今年度はPC更新もあり、ICT係からの情報提供などを積極的に行い教職員のICT利活用の向上を図った。今後も継続していきたい。	4	・学ぶ楽しさ、わかる喜びが得られる授業を作ることは、言うは簡単ですが、実際は最も難しいテーマだと思います。先生方の不断の努力や意欲に敬意を表し、これからも教材研究に取り組んでいただきたいと思います。 ・学校が楽しいと思えることは大切である。今後もこのようしていって欲しい。また、中央高校に進学してきた生徒がこのように感じていることを中学生にも積極的に広く広報していっていただきたい。 ・職員及び生徒によるアンケート結果をみる限り、高い評価となっており、目標に向けた方策は成功していると考えます。 ・アンケート結果にあるように、ICT機器の活用については、やや評価が低いので今後の結果に期待するところです。 ・多様な生徒がいる状況中央高校の使命が重要になってきている。
2	社会性を身につけ、自立と自律を目指す	・「種まき・芽生え・成長」という意識で、生徒一人ひとりの発達段階に応じたサポートの実践 ・「総合的な探究の時間」での「山梨を知る」探究活動や遠足を通して、地域を愛し、地域に貢献しようとする心を育む ・ソーシャルスキルトレーニングや通級指導を通して、他者との関係をよりよく築く	・生徒、職員、保護者、学校関係者などによる中間・年度末評価アンケートなどによる ・ハーモニックプランの実践状況 ・通級指導の実践状況	・生徒によるアンケートの結果「学校は、生徒の自立性、自主性を尊重してくれている」は94%、「先生方は、分けへだてなく私たちに接している」は94%、「私と年次や担当の先生方との間には、信頼関係ができている」は90%と肯定的評価であった。 ・保護者によるアンケートの結果「学校は、全ての教育活動において、生徒一人一人を大切にする姿勢で指導に当たっている」98%、「担任をはじめ先生との間に、信頼関係ができている」93%、「保護者が、子供の悩みや問題について学校に相談できる体制が整っている」96%であり、CHUOハーモニックプランに基づく教育効果について満足度が高い。 ・教職員によるアンケートの結果「CHUOハーモニックプランに基づいた教育活動が企画・実践・評価されている」の項目はそれぞれ100%、98%、98%と高く実践状況は良好であった。 ・生徒によるアンケートの結果「私にとって「THE　ENSOKU」は、山梨の歴史や文化が知れ、仲間と交流を深める機会になっている」は90%の生徒が肯定的な意見であった。 ・教職員によるアンケートの結果「校外学習が計画的に実施され、生徒の豊かな心の育成や社会性育成に役立てられている」96%と高い評価を得た。 ・教職員によるアンケートの結果「個別の教育支援計画に基づいた支援や社会性の育成（SST）に努めている」は肯定的な評価が100%であり、特別支援教育に全職員が理解を示している。	B	・「種まき・芽生え・成長」を目的にしたCHUOハーモニックプランに対しては、生徒・保護者・教職員からも一定の評価を得ており概ね目標を達成できた。今後も教職員間で情報共有を密に行い、外部連携も含め最適な支援を行っていく。 ・学園祭で実施した、シェアプロジェクト・plantitの作成と寄贈、フードバンクへの協力などの活動を通し、、「人と分かち合う事」「人の役に立つ事」「人に喜んでもらう事」といった気持ちの育成、自信を高めていく活動を継続していく。 ・「THE　ENSOKU」の事前指導や「総合的な探求の時間」で、地域で活躍している講師を招き、山梨や地域の伝統・文化・産業について体験を含めて学習する機会を多く設けた。次年度以降も更に充実させ、地域理解、地域貢献、郷土を愛する心を育んでいきたい。 ・多様な生徒に対応するため生徒指導支援会議、通級委員会、ケース会議等を開催し、全職員での情報共有と必要な支援策、生徒対応、各種外部機関との連携を検討し実行した。今後も生徒個々の状況、家庭環境に応じ最適な支援を継続していく。 ・通級指導では、今年度支援学校から交流で赴任した教職員、分掌を中心に新たな取り組みを含めた支援体制を構築している。	4	・さまざまな事情を抱えている生徒に対して、いろんな視点から指導に当たっておられることに敬意を表します。様々な体験を通して生徒の全人的な成長を育もうとされていることが良くわかりました。 ・「CHUOハーモニックプラン」に基づいて様々な活動が仕掛けられており、肯定的評価をいただいているとのことで、大変よろこばしいことである。是非継続していって欲しい。ただマンネリ化しないよう、新しいものを取り入れながら発展させていって欲しい。 ・職員等の各アンケート結果は高評価になっており、良好であると考えます。 ・自己評価による達成度は「B」との評価であるが「A」でも良いと考えます。 ・更なる取り組みを期待いたします。 ・挨拶と掃除は社会に出てからも大切なもの、学校でも引き続き指導をお願いしたい。
3	自らを尊び、他者を尊び、地域を尊ぶ	・授業や行事の中での「命を守る、命を大切にする」学習を通して、多様化する社会の中で自立して生き抜く力を高める ・「自らの生き方や在り方」を深める生活体験発表や、面接指導など実践的な進路学習を通して、社会的・職業的自立を目指す ・職員の心身における健康づくりの推進	・生徒、職員、保護者、学校関係者などによる中間・年度末評価アンケートなどによる ・研修実践状況 ・教職員の健康状況	・生徒によるアンケートの結果「自分の在り方、生き方を考える機会がある」が79%、「自分の考え方・見方が変わった・広がった」は78%の生徒が肯定的な評価であった。 ・保護者によるアンケートの結果「学校は、いじめのない学校を目指し、適切な対応をしている」に対し96%が肯定的な評価であった。 ・教職員によるアンケートの結果「生活体験文を通して、自己の在り方・生き方考え、自尊感情や自立意識の向上の場となっている」が昨年度より4．5ポイント増加し96%の職員が肯定的な意見であった。また、生徒によるアンケートの結果「学校は、進路についての情報を適切に伝え、進路を考える機会を作っている」に対しても、肯定的な意見が94%と高い。 ・教職員の健康管理については、健康診断や巡回健康相談、ストレスチェックの実施等、心身の健康管理に関する情報提供を行った。適切な勤務の割り振りを行い、教職員が健康を害し長期の休暇を取得することなく勤務できた。	B	・「命の授業」「ストレスマネジメント」等の講演会、保健体育や家庭科をはじめとする各授業で、命の大切さ、自他を認め合う学習活動を行った。また、避難防災訓練を通して、地震・火災・水害から自分の身を守ること、自助・共助の精神の育成、災害時に避難場所等で地域のリーダーとして活動できる資質の育成に取り組んだ。 ・生活体験文は生徒にとって、「生き方・在り方」を振り返り、深める良い機会となっている。今後も生活体験文の作成と発表を通して、生徒の成長を支援していく。今年度の山梨県教育祭における生活体験文発表会において、本校定時制生徒が3年連続で最優秀賞に選ばれ、11月の全国大会に出場し、賞をいただいた。しかし、全国大会までの出場生徒の指導について、担当者の明確な役割分担を行う必要がある。 ・教職員が個々の強みを存分に発揮し、生き生きと働ける職場環境を目指し、心身の悩みを気軽に相談できる体制の構築を継続していく。	4	・さまざまな取組をされており、またその準備にも相当な労力を要しているのではないかと察します。長年、「生命の授業」「ストレスマネジメント」の講師を務めていますが、実際にどのような効果や変容があるのか、アンケート調査などによってエビデンスを示すことも良いかと思っています。 ・薬物依存やギャンブル依存の治療では、基本的にしっかり自分のことを見つめさせ、それをグループの中で飾ることなく話させていくという活動が主に行われている。「生活体験文」の活動はそのようなことをさせる絶好の機会だと思います。一部の生徒の活動にならないよう全員が積極的に取り組む活動にしていってほしい。 ・生徒のアンケート結果は「自分の在り方、生き方を考える機会がある」「自分の考え方・見方が変わった・広がった」で肯定的な評価が80%近くあり、保護者では「学校は、いじめのない学校を目指し、適切な対応をしている」が96%と学校の対応について高評価を得ている。また、職員の評価も高い結果となっている。 ・ストレスチェックによる働きやすい職場、生徒にとっても安心安全な学校を目指して更なる改善等を期待します。

留意点　（1）重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
（2）学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。